

1 開催概要

(1) 事業の4つの狙い

1) 多様なプログラム参加を通じて町家の素晴らしさを市民に広く知ってもらおう

ふだんは人が住んでいる個人宅（町家）に気軽に入ることはできない。しかしながら、コンサートやアート展を鑑賞に来たとか、レクチャーを聴きに来たとか、町家に入る口実をいろいろな形で提供することにより、町家の中に入ってもらい、外観だけでなく中の様子もじっくりと味わってもらおう。

2) 「わぁ素敵ですね」という言葉により家主のプライドをくすぐる

町家を訪れる人たちが、外からは想像できないような素敵な住まい方をされているのを見て、口々に「素敵」、「こんな住まい方もいいね」という言葉を発する。その褒め言葉を聞く度に、家主は町家住まいに誇りを感じ、これからも住み続けなきゃという思いを強くする。

3) 町家に住んでみたい人と空き家を繋げる

町家の所有者は「こんな町家は売ったり、貸したりできるはずがない」と端から諦めている。不動産業者も「中古物件」というくくりで扱い、町家に対してあまり積極的ではない。そのため、町家に住んでみたい人が潜在的に増えているにも関わらず、不動産情報にあまり載ってないため探せないというのが実態である。そのようなミスマッチを解消して、一人でも町家住まいの方が増えることを期待している。

4) 市街地を回遊する楽しみを増幅させる

今回、金沢21世紀美術館が主催している「アートプラットフォーム」と開催期間を重ねた。そうすることにより町家とアートが連携した形で市街地を回遊する人が増えることを期待。

(2) 4つのエリアと4つの基本プログラム

会場を提供してくださる町家33軒を選定し、市内を4つのエリアに区分した。10月3日から11月3日の1ヶ月間、1週間ごとに異なるエリアでプログラムを展開することにした。第1週が東山エリア、第2週が犀川エリア、第3週が金石・大野エリア、第4週が浅野川エリア。毎週末、エリアごとにプログラムを集中させ、それぞれのエリア内を回遊してもらえるように企画した。

第1週：東山 (10月4日～10日)

第2週：犀川 (10月11日～17日)

第3週：大野・金石 (10月18日～24日)

第4週：浅野川 (10月25日～11月3日)

プログラムは大きく4つに分けられる。様々なテーマで町家を会場とすることにより、市民のみなさまがそれぞれ関心のあるテーマを見つけて町家に触れてもらえるようにした。

「町家拝見」 お住まいを特別にその日だけちょっと覗かせてもらう

「町家deマナブ」 町家を仕事場に行っている職人からお話を聞く

「町家deアート」 町家を舞台空間として演劇やアート展、コンサートを楽しむ

「住みたい町家を探そう」 賃貸や売却物件となっている町家を見学してもらう（詳細は後述）

(3) 水引細工が目印

上記プログラムの会場となる「金澤町家」33軒と「町家ショップ」22軒の軒先に水引細工のオブジェを吊し、目印を表すことにした。その球体は、水引細工の基本形「あわじ結び」で編んでもらった。左右の輪が互いに結び合い、両端を持って引っ張るとさらに強く結ばれることから、末永くおつき合いたいという意味を持つ。町家どうしあるいは町家とその住まい手の親密なネットワークを築きたい、そうすることにより町家がむやみに取り壊されていく流れに歯止めをかけたい、そのような強い願いを込めて市内の水引工房にオリジナルデザインで作ってもらった。『これは何ですか?』と、市民や来訪客と町家ショップとの間でコミュニケーションが生まれることも期待している。

(4) 企画運営体制

主催：NPO法人金澤町家研究会 町家巡遊08実行委員会

共催：金沢市

(5) プログラム構成内容

「町家拝見」13プログラム、「町家deマナブ」13プログラム、「町家deアート」14プログラム、「住みたい町家を探そう」2プログラム、関連イベント5プログラム。

(6) 事業の告知

1) リーフレットの配布

事前に、あるいは会期中に事業内容を市民の方々に伝えるために、リーフレットを15千部印刷し、各会場や町家ショップ、まちなかの喫茶店、金沢21世紀美術館などで配布した。

水引細工が目印
会場となっている町家の軒先には水引細工のオブジェが吊されています。町家巡遊オリジナルデザインの水引細工を探してください。「あわじ結び」には、人と人を結ぶという意味があります。町家と町家や町家の住まい手を繋ぐ意味を込めています。 制作協力：千とせ水引

33箇所町家で42の催し

町家拝見
住宅や仕事場として利用されている町家、普段は公開されていない町家を期間限定で特別に公開します。住まい手や作り手との会話から町家の魅力を直に感じてください。

町家deマナブ
町家を作業者としている職人や町家で自営をされている店主によるミニレクチャーを開きます。仕事場としての町家の魅力を味わっていただきます。

町家deアート
普段は非公開の町家や空き家を会場としてアート展示やコンサート、演劇上演を行います。アートと町家のコラボレーションを楽しんでください。

住みたい町家を探そう
賃貸や売却物件となっている町家をご自身の目で自由に選んでいただきます。自分が見つけている町家が見つかるかも…

※予約が必要なイベントは事務局まで事前に申込をお願いします。氏名、〒、住所、TEL、FAX、E-mailを連絡下さい。▶▶▶▶▶

【金澤町家とは】
金沢市内に昭和25年以前に建てられた歴史的な住宅を総称しています。武家屋敷、足輕住宅、町家、近代和風住宅など様々な建築様式があります。

NPO法人 金澤町家研究会
金澤町家を金沢市民が共有している重要な資産として鑑み、その継承・活用のために必要な調査・研究、学習や情報発信、実践活動を行っています。平成17年6月に発足。平成20年2月に非営利活動法人(NPO法人)になりました。
活動主旨に賛同される方はどなたでも会員になることができます。氏名、住所、所属、TEL、FAX、E-Mail、入会費を事務局宛にお知らせ下さい。(年会費1千円) 町家に関する無料相談会を毎週土曜日13時から17時に事務局にて行っています。お気軽にお越し下さい。

NPO法人金澤町家研究会事務局
金沢市東10-17 TEL/FAX 229-7831 E-mail kanzawa-machiya@nifty.com

町家巡遊
ひと・わざ・暮らしの町家展
2008

2008年10月3日(金)～11月3日(月・祝)
主催：NPO法人金澤町家研究会／金沢市
後援：ハウジングアップコミュニティ財団／(社)北陸建設弘済会
町家巡遊08公式ブログ <http://machiya08.exblog.jp>



図 町家巡遊08リーフレット (部分)

2) 活動紹介ブログ

リーフレットでは紹介しきれない事業プログラム内容や町家の大きな写真、チラシなどを「町家巡遊08公式ブログ」に掲載し、web上でアクセスし閲覧してもらった。また、ブログからリーフレットのPDF版をダウンロードできるようにした。

<http://machiya08.exblog.jp>

2 参加の実態と感想

(1) 参加者数

「町家deマナブ」と「町家deアート」の有料プログラムについては、事前申込制としたため、参加者名と正確な人数を把握している。前者は総数228名（プログラム18は直前に中止）、平均約20名、後者は総数176名、平均約35名の参加があった。

その他のプログラムは参加者数を計測していなかったのではっきりしないが、町家拝見のプログラムでは、2日間で300～400名が訪れた町家もあり、毎週500名と想定すると会期中に約2千名が参加したものと推察される。

表 町家deマナブの参加者数

No.	開催日	タイトル	参加者数	定員
14	10月4日	もやしものすみか	15	15
15	10月5日	足るを知る	18	15
16	10月11日	庭師と町家のくらし	22	15
17	10月11日	町家修復セミナー	13	15
19	10月12日	畳とすまいの話	25	15
20	10月19日	町家の古道具	13	10
21	10月19日	アロハが似合う訳	9	15
22	10月25日	模型づくり	20	10
23	10月25日	火鉢を囲んで	14	10
24	10月26日	建具屋の話	11	10
25	11月1日	茶の湯釜づくり	18	15
26	11月3日	金澤町家セミナー	50	40
合計			228	

表 町家deライブ・演劇の参加者数

No.	開催日	タイトル	参加者数
29	10月5日	第1回ライブ	30
30	10月12日	第2回ライブ	61
38	10月19日	第3回ライブ	22
39	10月19日	演劇かき	23
40	10月26日	第4回ライブ	40
合計			176



写真 町家拝見で庭を眺める



写真 町家拝見で収納について説明を聞く



写真 町家ショップに吊された水引細工



写真 町家 de アート 町家内の展示作品群



写真 町家 de アート 庭園演奏を町家で鑑賞



写真 町家 de マナブ 畳職人の話を聞く

(2) 参加者の感想

各種プログラム参加者のうち、437名の方々がアンケート調査に協力していただいた。

1) 回答者の属性

30代以下の若い方が半数を占め、性別では男性女性共に半々、金沢市外の方が23%を占めている。

表 回答者の属性

◇住所			
		回答数	構成比
1	金沢市内	335	77%
2	金沢市外（県内）	27	6%
3	金沢市外（県外）	41	9%
4	金沢市外で不明	17	4%
5	無回答	17	4%
	計	437	100%

◇年代			
		回答数	構成比
1	10代	42	10%
2	20代	86	20%
3	30代	94	21%
4	40代	66	15%
5	50代	63	14%
6	60代	45	10%
7	70代以上	20	5%
8	無回答	21	5%
	計	437	100%

◇性別			
		回答数	構成比
1	男性	214	49%
2	女性	214	49%
3	無回答	9	2%
	計	437	100%

2) 参加したプログラムに関する感想

講師や職人のお話し、町家の暮らしぶりなど、ふだん接することができない体験が得られること、町家がイベント空間として活用され、それがうまく調和していて興味深い等といった声が多く寄せられた。

3) 町家のどのようなところに魅力を感じたか

町家の持つ落ち着いた雰囲気、町家の豊かな暮らしぶり、庭の美しさ、町家の持つ陰影感から建築的な特性まで幅広く魅力を感じている。

4) 町家の何を知りたいか

町家の建築的なプロフィールやその維持管理、暮らしぶりなど、視覚的に分からないことや、賃貸情報や耐震性など町家を借りることを前提とした情報などを求めている。

5) 今後どのようなプログラムを期待するか

今回のプログラムにはなかったセミナー・見学会、お茶会などのイベント、カフェや食事会などの提案、町家拝見の充実案などの意見が挙げられており、次回の参考としたい。

6) 金澤町家の居住・活用経験と活用意向

金澤町家に現在活用している方が 11%、過去に活用していた方が 5%であり、まだ活用したことのない方が 75%を占めている。今後活用したい方は 36%（どちらかという活用希望も含めると 74%）あることがわかる。

今後の活用にあたっては、住宅を希望している方が 55%、店舗や作業場専用 19%、兼用 20%という割合であり、持ち家と借家について希望は分かれた。

3 住みたい町家を探そう

(1) 開催の目的

所有者に賃貸・売却意向のある空き町家を開催期間中は自由に見学できるように公開するものである。町家物件を探している人への機会提供だけでなく、町家に対する需要があることを町家所有者や仲介業者にアピールすることも開催のねらいである。








(2) 開催概要

第1回は10月4日（土）～5日（日）に開催し、賃貸物件2軒、売買物件3軒（うち1軒は成約済み）を公開した。第2回は11月2日（日）に開催し賃貸物件3軒、売買物件3軒を公開した。

公開した空き町家のうち、すでに賃貸・売買物件として不動産市場に顕在化していたものは3軒であり、残りの4軒は町家研究会の相談会や町家巡遊実行委員会スタッフのネットワークを通じて見つけたものである。公開に際しては学生スタッフの協力を得て事前に清掃を行い、また開催当日も続き間の伸びやかさや光、風を感じてもらうため間仕切りの建具や窓を開放するなど、できるだけ良い状態で町家を見てもらうよう配慮した。

参加者には町家研究会事務局で受付してもらい、そこでマップを渡して、各自で町家を見て回ってもらった。物件概要書はそれぞれの町家で手渡した。町家にはスタッフが常駐し、訪問人数の記録と物件に対する感想のヒアリング調査を行った。受付には建築または不動産関係の専門家が常駐し、参加者からの質問に対応した。

表 公開した空き町家の概要

物件名	町家1	町家2	町家3	町家4	町家5	町家6	町家7
物件写真							
住所	尾張町2丁目	東山2丁目	東山2丁目	東山3丁目	東山3丁目	東山3丁目	幸町
物件種別	貸店舗	貸店舗	売家	成約済売家	売家	貸家・貸店舗	売家
公開日	第1回	○	○	○	○	○	
	第2回	○	○	○		○	○
物件を見つけた経緯	かなざわ町家情報バンク掲載物件06・07年度の活用モデル事業町家	町家巡遊実行委員会スタッフの人からの紹介	現地に「売り物の表示あり	かなざわ町家情報バンク掲載物件	町家巡遊実行委員会スタッフの人からの紹介	町家相談会の相談物件	町家巡遊実行委員会スタッフの人からの紹介

第1回と第2回を合わせた3日間の延べ参加グループ数は171グループ、延べ参加人数は284名であった。グループの人数は1人が53%、2人が35%と多かった。2人グループの約8割が男女のペアであり、生活パートナーとともに町家を探しに来たケースが多いと考えられる。また3人グループの約6割が成人男女と未成年からなるグループであり、家族で町家を探しに来たケースも多いと思われる。

性別は男女がほぼ同数であった。年齢別にみると、20代が21%、30代が31%、40代が19%と多い。20代は必ずしも空き町家を探しに来た訳ではない建築・まちづくり関係の大学生が多かったようだが、30代は住むための空き町家を実際に求めている子育て世代の夫婦が多くを占めていたと見受けられた。